

3 夏季研修①

かしまわんぱく広場

所在地	南相馬市鹿島区鹿島字北千倉 24 番地の 1
設計者	仙田満
構造形式	鉄骨構造膜素材屋根（床面：人工芝）
延床面積	約 800 m ²
竣工	2016 年 4 月

かしまわんぱく広場は、子育て世帯が安心して子どもを遊ばせることができる環境の確保と、震災以降低下した子どもの体力の向上と健康増進を図ることを目的に設置された。

■立地

立地面は、鹿島小学校と鹿島幼稚園に隣接しており立地に妥当性を見出すことができる。しかし、立地場所の付近に仮設住宅があり、その駐車場の位置に建設したことや騒音などの問題により、近隣の住民の一部は否定的な意見があることもわかった。建設後には、幼稚園や小学校の送り迎えの際の保護者同士の交流など、建設時には考えられなかった目には見えない効果が得られた。

■機能

機能面は、かまぼこ型を少し丸めたようなデザイン性を重視する外面となっている。内部は、ネットを設けるなどして、子どもが遊ぶ上で、年齢差のある子どもが怪我をしないように配慮されていた。

■防犯

防犯面では、夜間に施設で宿泊していたことから、雨仕舞や防犯面においてが不十分となっていたと感じた。強風への対応も、人の手で開け閉めを行わなければならない、常駐している職員もいないため大変手間がかかる。



南相馬みんなの遊び場

所在地	南相馬市鹿島区鹿島字広町 1 3 番地
設計者	伊東豊雄、柳澤潤
構造形式	木造平屋建
敷地面積	171.37 m ²
延床面積	153.34 m ² （うち砂場：44.2 m ² ）
竣工	2016 年 5 月

この施設は、東日本大震災被災地支援として行っている「みんなの遊び場プロジェクト」により寄贈され、南相馬市では、屋内における子どもの遊び場を提供することで子どもの健全な育成を図ることを目的としている。

震災後、市内には室内の遊び場が1つもなく、地域の子どもの遊び場を求められていた。それらのことより、安心して砂場遊びができる場所が提供された。子ども同士の交流だけでなく、親同士の交流ができる場にもなっている。

■立地

立地面では、上記のかしまわんぱく広場と同様に、鹿島小学校と鹿島幼稚園の近辺に建設された。しかし、アクセスの面において、建物自体が道路から直接見えないことや、施設そのものが見えないことにより、閉鎖的な印象が見受けられる。そのため、かしまわんぱく広場ほどの利用者を集める力はなく、まったく利用されない日もあることが分かった。ただし、建物の設計者が柳澤潤であり、伊東豊雄が企画に携わっていることから、特徴的な意匠による集客が見込める。その特徴的な形を浮かせないために、隣接した児童館の外装もこの建物に近づけた。

■機能

機能面では、室内砂場であるため管理の手間が掛かっている。上記のかしまわんぱく広場同様、雨仕舞が不十分のように感じられた。他にも、出入り口が分かりにくいなど、やはり閉鎖的なイメージが否めない。建物の内部では、天井の梁が見えるような珍しい構造になっている。壁には、新建材のハニカム材を、天井の梁は針葉樹を使用しており、低コストに努めている。現在は、砂場としてのみ運用され、今後はサンドアートや、木工クラフト教室など様々な工夫がなされようとしている。



◆かしまわんぱく広場と南相馬みんなの遊び場のまとめ
共通点としては、どちらの施設も親同士の交流の場という機能を持っているが、現状、南相馬みんなの遊び場ではその機能はあまり使用されていないように思う。かしまわんぱく広場は人工芝、南相馬みんなの遊び場は天然の芝であり、人工芝はタバコや花火の火の対策を今後していかなくてはならない。なお、天然の芝は管理の手間も掛かるため、運営を継続していくためには妨げとなり得る。豪雨や台風の際の雨水の処理が不十分で、雨どいは、デザインと機能との兼ね合いで設置か否かが決められる。

かしまわんぱく広場は、安全対策として、監視カメラで市の職員が確認しており、夜間は開放的であることからブルーライトが点灯し、犯罪抑制効果を期待している。施設内は、広場と二つの遊具が設置され、施設で利用できる道具が限られている。それにより遊びが限定されてしまい、幼児の遊びに飽きが生じると考えられる。しかし、ふわふわドームはいつまでも飽きないという説明があった。今後多くさんの利用者を獲得するため、幅広い年齢が楽しむため、運営側が努力していく必要がある。

南相馬みんなの遊び場では、砂場遊びという単機能施設であり、子供たちのマンネリ化が想定される。その解決策として、施設の建設に使用されているような素材を上手く利用したサンドアートや木工クラフト教室などを定期的で開催していくことを視野に入れて運営していくことがある。また、砂場の砂を抜いて幼児用のプールとして活用することや、砂場の部分に板をはめてイベントを行うこともできるかもしれない。安全面では、常時職員の目が届いているが、閉鎖的な環境になっている。両施設の周辺は、教育施設が隣接しているため、比較的施設内外での安全性は保たれている。

みんなの家プロジェクトの他の事例

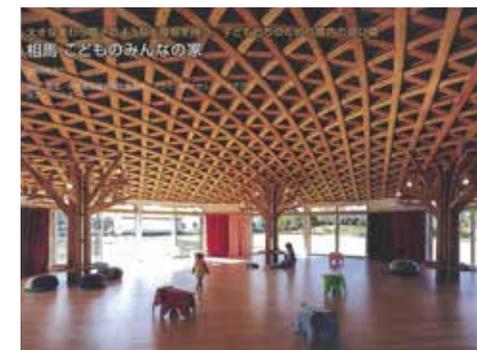
所在地	福島県相馬市北飯淵 1-15-1 角田公園
設計者	伊東豊雄
構造形式	木質構造
敷地面積	19,807.78 m ²
延床面積	152.87 m ²
竣工	2016 年 5 月

相馬 こどものみんなの家

2015 年 2 月、「相馬 こどものみんなの家」は市内の未就学児の子どもたちを安心して遊ばせる場所が欲しいという要望に応えるべく完成した。これは、東日本大震災以降、伊東豊雄氏をはじめ多くの建築家が取り組んできた、「みんなの家プロジェクト」の1つであり、「南相馬市 みんなの遊び場」もみんなの遊び場プロジェクトでもあった。

相馬 こどものみんなの家の屋根は 60 度ずつふりながら 3 方向に重ねる作業を 3 セット、全 9 レイヤーを重ねたシンプルな構造になっている。その外見は麦わら帽子をイメージとしている。外壁の杉板材は紅白色のストライプとし、一見するとサーカステントのような楽しきひと目見て元気になるデザインとした。

現在は、相馬市、南相馬市によって管理運営されており、子どもたちが自由に遊びまわり、本を読んだり絵を描いたり子どもたちの笑顔で溢れている。相馬 こどものみんなの家では定期的に親子ヨガなどのイベントも企画され積極的に地域の方に利用される憩いの場となっている。



▲相馬 こどものみんなの家・内観（近代建築 2016.1 vol.70）